治療のむずかしい肺線維症

いまの時期は〝セキの季節〟だ。そして、多くの場合「風邪だな」と思ってしまう。しかし、甘くみていると大変なことになる。肺線維症というむずかしい病気であることもあるし、この病気は風邪をこじらせると、進行することにもなるからだ。

風邪が病状を悪化させ

原発性と続発性の肺線維症に

セキが出、息切れしやすくなり、さらに呼吸困難にも…。しかし、発熱はない。セキが出、息切れしやすくしかし、発熱はない、こんな症状の時は肺線維症を疑う

こんな症状があると肺線維症を疑う必要がある。

ガス交換もスムーズにいかなく

この病気はその名前からもわかるように、肺の中で線維成分が増え、そのために肺の組織が硬くなってしまい、ガス交換もスムーズにいかなくなる病気だ。

普通、原因不明の原発性肺線維症と、原因が他の病気である続発性肺線維症に大別される。

後者の場合も、肺炎の異常経過や、石や鋳物、溶接などを吸うことによって起こる塵（じん）肺、枯れ草や綿・油などを扱うことによって起こる職業性肺炎、関節リューマチのような膠原（こうげん）病などが原因、というようにさらに細分される。

この病気を根本的に治す薬はなく

診断は、胸部X線写真、肺機能検査によるが、より正確な診断となると開胸して生検ということになってくる。

ところで、この病気を根本的に治す薬はないのだ。とくに原発性肺線維症の場合は対症療法として酸素療法を行ったりするていどだ。

続発性肺線維症では、原因となる病気の治療が先決だ。いずれにせよ、治療が困難な病気であることは間違いない。

多くは慢性だが急激に進行するタイプもある。こうしたときはプレドニンやリンデロンといったステロイドホルモンを大量に服用させることが多い。これは専門医、つまり呼吸器疾患の医師の指示に従う必要がある。

風邪の流行時は外出を控え

セキ止めを用いたり、息切れのひどいときは、ホルモン剤を少量続けて服用するケースもある。

この病気の経過は芳しくない。原発性肺線維症は不良だし、続発性肺線維症にしても原因の病気によって異なってくるが、総じて良好とはいえないようだ。

ところで、この病気を悪化させる大きな要素に感染症がある。だから、風邪をこじらせると肺線維症を進行させることになる。風邪を軽視せず、医師の診察を受けることが大切だ。

それと、この病気の人はホコリの多い場所や人ゴミを敬遠し、風邪の流行時は外出を控えるようにしたい。

牛乳と乳幼児の糖尿病

近年、乳幼児の糖尿病が先進諸国で問題になっている。その原因は、糖分解に必要なホルモンの一種インシュリン（すい臓のランゲルハンス島という組織のベータ細胞から分泌される）の生産に関係するタンパク質が、自己免疫という機構によって破壊されるからだ。

ここまでは判明しているのだが、それではどうして、というところは未解決だった。

カナダのトロント幼児病院小児免疫科のM・ドッシュ博士らは、糖尿病にかかっている乳幼児が共通して牛乳中のウシ・アルブミン（タンパク質の一種）の断片に抗体を持っていることを、このほど確認した。

このウシ・アルブミンの断片は、ランゲルハンス島のP69に含まれるタンパク質に構造的に酷似している。

このタンパク質はウイルス感染を防御するために細胞の表面に現れる特性を持っているので、ウイルス感染の度にインシュリン分泌機構が破壊され、ついには糖尿病になってしまうというわけだ。